

# 実践編



奈良県内の特別支援学級担任の取組をヒントに指導例を実践編としてまとめました。  
 子どもの実態把握をもとにして、子どもにどう生かせるかを考えて、実践を作り上げて  
 ください。

## 表記について

障害種別	単元・題材名
教育課程上の位置付け	指導の形態：教科の目標や内容を取り入れた教科等名
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">実態</div> その教科における対象児の実態	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">目標</div> 教科や単元における対象児の目標
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">実践</div> 1時間の流れ、もしくは指導内容を記述 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;">                         授業の具体的な工夫点や配慮点、指導するときのポイントを記述                     </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">担任の願い</div> 担任として、単元を計画した意図や指導するときの配慮、本人・保護者と共有する目指す将来像などを記述	

知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の場合  
 例…（特）国語

生徒に対して小学校の教科の内容や目標を取り扱う場合  
 例…（小）国語

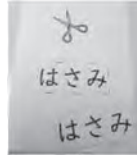
## 知的障害特別支援学校における国語と算数の指導

### 国語

- ・絵本の読み聞かせを聞く  
再現遊びをする
- ・身近なものの名称を知る（聞いて分かる）
- ・単語のマッチング（見て合やす）
- ・一文字ずつのマッチング
- ・音と文字のマッチング（聞いて選ぶ）
- ・音と文字とものを結び付ける



子どもの名前  
子どもが好きな人や物、キャラクターの名前等、  
興味・関心のある教材を工夫する



はさみを とってきて

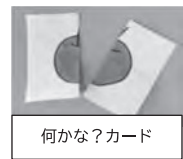
「文字」と「音」、「イメージ」が  
一致するように

### 算数

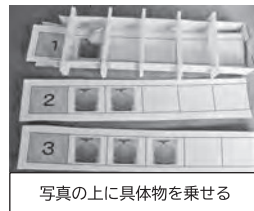
- ・ものとものを対応させる  
ものとものを対応させて配る  
分割した絵カードを組み合わせる  
関連の深い絵カードを組み合わせる
- ・具体物を数える  
シート状か、外枠があるか  
など工夫する
- ・もの、形、色などの分類をする  
具体物同士、絵カード同士、絵カードと具体物
- ・大小、長短、高低などの違いが  
分かり、比べる



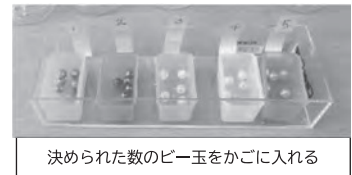
お盆に牛乳を一つずつ配る  
授業で学習したことを日常  
生活に結び付ける



何かな？カード



写真の上に具体物を乗せる



決められた数のビー玉をかごに入れる



具体物で大小を比べる



具体物同士を分類する



絵カード同士を分類する

## 知的障害 小学校

## 通常の学級の間を活用したSST（ソーシャルスキルトレーニング）

特別活動、自立活動	特別活動、自立活動
<b>実態</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に自分の気持ちを素直に伝えたり、友達の気持ちを受け止めたりすることが難しい</li> </ul>	<b>目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちを伝えることができる</li> <li>・友達の気持ちを受け止めることができる</li> </ul>
<b>実践</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校放送により、適切なコミュニケーションのとり方を目指したロールプレイを視聴する (あいさつ・上手な聴き方・あたたかいメッセージ・上手な断り方 など)</li> <li>・交流及び共同学習として通常の学級の教室で、各学年の発達段階に適したロールプレイモデルを用いて練習する</li> <li>・学習カードに、その日に学んだことを記入する</li> <li>・特別支援学級で振り返りを行い、定着を図る</li> </ul>	<p>学習カードや掲示物を共有する</p>
<b>担任の願い</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じタイミングで全児童に指導を行うことで、全教職員が一貫した対応をすることができ、児童が混乱しないで適切なコミュニケーションのとり方を学ぶことができる</li> <li>・児童が学習場面で学んだソーシャルスキルを日常生活でも活用できるようにする</li> </ul>	

## 知的障害 小学校

## 忍者になるんじゃ！？

生活、国語、図画工作、体育、自立活動	遊びの指導：(特)生活、(特)国語、図画工作、 体育、自立活動
<b>実態</b> ・友達と一緒に遊ぶことが少ない ・「～したい」と気持ちを表現することが少ない	<b>目標</b> ・友達や仲間と活動を楽しむ事ができる ・身近な人に自分の願いや気持ちを伝えることができる
<b>実践</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで話し合いながら、忍者になるために必要な動きや運動を考え、サーキットのコーナーを作る</li> <li>・体育館にある用具で足りない物は自分たちで工夫して作る (道具、看板、説明文など)</li> <li>・コースを試している様子をタブレットPCで撮影し、その映像を見る時間を設けることで「どうしたらもっと良いものになるか」について話し合い、コースの改良や工夫を重ねる</li> <li>・各コーナーの担当グループから遊ぶポイントの説明を聞き、約束を守って「忍者修行」を楽しむ</li> <li>・各時間の終わりに活動を振り返る</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     道具などが足りないときに、教員から声をかけるのではなく、児童から言うようにする                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     児童が自分の気持ちに気付いたり、頑張ったところを発表したりすることができるように、「どのコースが好きだった?」「できなくて悔しかった?」「自分が考えたところはどこ?」「うまくいったところはどこ?」と教員が質問する                 </div>	
<b>担任の願い</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚統合の視点を取り入れたダイナミックな活動を中心にする事で、一人一人の活動量を保障する</li> <li>・児童が主体的に取り組もうとする仕掛けづくりをすることで、活動を通して良好なコミュニケーションの力を育てる</li> <li>・縦割り班での活動を設定することで、上級生としての責任感を育み、児童が友達や仲間伝えたり、説明したりする力を身に付けられるようにする</li> <li>・ICT機器を活用することで、児童が自分の活動を振り返り、自己理解を進めることができるようにする</li> </ul>	

## 知的障害 中学校

## 電車に乗って出かけよう

国語、社会、数学、特別活動、自立活動	生活単元学習：(小)国語、(小)社会、(小)算数、 特別活動、自立活動
<b>実態</b> ・公共施設や公共交通機関を利用する経験が少ない ・自分の経験や思いを話すことができない	<b>目標</b> ・電車の利用の仕方が分かる ・困ったときに質問したり、自分の経験をまとめて発表したりすることができる
<b>実践</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習をした上で、校外学習を行う 電車利用のときの困ったエピソードや対応について知り、解決するための方法を考える 切符を買って、ホームでの待機場所や順番など確認し、安全に待つ 気になったところ、知って欲しいところを自分で写真に撮る</li> <li>・事後学習としてまとめたり、発表したりする 紙面でまとめるか、パソコン等を使ってまとめるかを選び、路線図や地図、撮影した写真を使って振り返りを行う</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     駅員さんに何をどう伝えたらいいかを考える 自分の住所や連絡先を言うか、メモを見せる住所等を忘れたときや、困ったときに生徒手帳を活用する                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     構内放送がかかった時に意識できるかどうか、聞き取りの力や短期記憶の力についても、把握しておく                 </div>	
<b>担任の願い</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室での学習を実際の生活場面で生かしたか、次の課題は何かなど、生徒自身が気付けるようにする</li> <li>・電車の利用以外にレストランやビュッフェの利用など、実際の経験を重視した授業の計画を立てることで社会経験を広げたり、余暇活動の充実を目指したりする等、将来の生活を豊かにすることにつながる</li> </ul>	

知的障害 中学校

朝の会

保健体育、特別活動、自立活動	(特)保健体育、特別活動、自立活動
<b>実態</b> ・教員の言葉がけがあると次の行動をしたり、身だしなみを整えたりすることができる ・友達と遊ぶ経験が少ない	<b>目標</b> ・予定が分かり自ら行動できる ・自ら身だしなみを整えることができる ・余暇活動を広げる
<b>実践</b> ・一日の予定確認（授業、教室など）をする ・身だしなみの確認をする 確認用紙を見て、姿見や手鏡を使って、ペアになってなど ・トーキングタイム ・集団でするゲーム（ボードゲーム、カードゲーム等）を楽しむ どのゲームをするか、相談して決める 顔を見ながらのゲームは声のかけ方や感情をコントロールすることなどを学べる機会である	昨日のできごと、見たテレビの話題、出かけた場所など、時間を決めて話し、質問し合う やり方を教え合う、順番を守る、次の人に声をかける、負けても大丈夫と思えるなどの経験をする
<b>担任の願い</b> ・毎日1時間目に生徒が特別支援学級に集まり、一斉に指導を受けられるように場面を設定する ・生徒自身が、相手にどのように見られているのかを気付き、身だしなみを整えられるようにする ・生徒が話したいことや聞いてほしいことを話し、質問し合うことを通じて、交流学級でのスピーチの時間に活用できるようにする。また、働くときに同僚との会話に活用できるような力を育てる ・生徒が仲間と安心して過ごせる経験を重ねて、休み時間や休暇中の過ごし方など余暇活動の充実が図られるようにする	

知的障害 中学校

調理実習をしよう

国語、数学、技術・家庭、自立活動	作業学習：(小)国語、(小)算数、(特)職業・家庭、自立活動
<b>実態</b> ・生徒同士での話し合い活動の経験が少ない ・現在は保護者が食生活の管理を行っている	<b>目標</b> ・生徒同士で話し合いをして課題解決ができる ・バランスの良い献立を考えることができる ・報告・連絡・相談ができる
<b>実践</b> ・三色食品群について学習し、バランスの良い食生活について考える ・パソコンや図書室等を活用して献立を考える ・それぞれ、考えた献立について話し合いをして今回作る献立を決める ・予算内に収まるようにチラシを参考にして、購入する食材や個数を買物シートに記入する ・担当を決めてお店で買物を行う ・調理実習を行う（同じメニューを2回繰り返す） 1回目：役割分担をして…「ほう・れん・そう」がキーワード 2回目：一人で…「困ったときにはHELP」がキーワード	話し合いの手順やポイントを示しておく 生徒の実態を考えて、プリントに書く（枠の大小や項目名の有無）かタブレットPCでまとめるかなどの複数の方法を準備し、生徒が選べるようにする
<b>担任の願い</b> ・教室での学習と実際の生活場面での行動を見て、生徒の課題（お金の扱い、商品の分類、コミュニケーション、援助スキルなど）を明確化する ・買う商品がないとき、商品の場所が分からないときなど、想定外の場合にも生徒自身が対応できる力を育む ・生徒が健康的な生活を送るための基礎となる力を付けられるようにする	

国語、数学、技術・家庭、自立活動	作業学習：(特)国語、(小)算数、(特)職業・家庭、自立活動
<b>実態</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>誰かの役に立ちたいという思いがある</li> <li>実際の仕事を体験したことがない</li> <li>小集団で役割分担をして作業ができる</li> </ul>	<b>目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業を通して仕事について知る</li> <li>作業等を通して、自己有用感を得る</li> <li>報告・連絡・相談ができる</li> </ul>
<b>実践</b> 配布準備の依頼があったら… <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員から仕事の依頼を受け、生徒が仕事内容の聞き取りを行う 何を、いつまでに、どうするのか等を聞き取り、メモをとる (数量、締切日、納品場所 など) 聞き取った内容を担任に報告する</li> <li>作業をする 分担をして役割をやり遂げる (どの学年を担当するか、数える係・確認する係 など)</li> <li>仕事が終わったら教員に報告し、確認を受ける 確認後、仕事が終わっていないところがあれば手伝う</li> <li>依頼者に納品する</li> </ul>	
<b>担任の願い</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が、交流学級担任や依頼者から「助かったわ」等の言葉を聞き、自分の行った仕事がどのように人の役に立つのかを感じ、感謝される経験を積むことで自己有用感へとつなげられるようにする</li> <li>どうすれば正しくできるのか、速くできるのかなど、得意な方法を生徒自身が考えられるようにする</li> <li>印刷や清掃、お茶の提供など、学校生活に関わる内容を扱うことにより、他の教職員とともに生徒の成長を考えることにつなげる</li> </ul>	

依頼者が不在の場合など、想定外のことにも対応できるように、具体的にどのようなすればよいのかを体験しながら学習する

過不足があったときの「〇枚、足りない」「〇枚だった」など生徒の実態に合わせて、声のかけ方を変える

国語、技術・家庭、自立活動	作業学習：(特)国語、(特)職業・家庭、自立活動
<b>実態</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来の自分についてのイメージをもつことが難しい</li> <li>学校では自分の気持ちを伝えたり、作業に集中したりすることができる</li> </ul>	<b>目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の自分について考える</li> <li>職場体験でもっている力を発揮する</li> </ul>
<b>実践</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習として、働くことについて考える 働いている先輩を招いての座談会 今の自分・将来の自分について考える 適切な身だしなみやふさわしい言葉遣いについて知る</li> <li>職場体験を行う</li> <li>事後学習として、報告会を行う 目標の振り返りや実習ノートの書込み 体験報告会で発表</li> </ul>	
<p>お礼状や報告会での発表方法として、文章で書く、絵で描く、音声、動画などから生徒が選べるようにする</p>	
<b>担任の願い</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校の職場体験に限らず、作品展の受付など短時間での体験も取組内容として考えられる</li> <li>実習を通じて、生徒自身が、将来「〇〇できるようになりたい」など今後の目標について考えられる力を育む</li> <li>キャリア教育の視点から付けたい力を考え、他の教科とも関連付けて取り組み、生徒のもてる力を伸ばす</li> </ul>	





特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）では、視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者及び病弱者である子どもに対する教育を行う特別支援学校における各教科の内容の取り扱いについて、障害の特性等に応じた指導上の配慮事項に関する記述が充実されました。

以下に、肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害に関する記述を、それぞれ抜き出しました。

### 肢体不自由


- (1) 体験的な活動を通して言語概念等の形成を的確に図り、児童生徒の障害の状態や発達の段階に応じた思考力、判断力、表現力等の育成に努めること。
- (2) 児童生徒の身体の動きの状態や認知の特性、各教科の内容の習得状況等を考慮して、指導内容を適切に設定し、重点を置く事項に時間を多く配当するなど計画的に指導すること。
- (3) 児童生徒の学習時の姿勢や認知の特性等に応じて、指導方法を工夫すること。
- (4) 児童生徒の身体の動きや意思の表出の状態等に応じて、適切な補助具や補助的手段を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。
- (5) 各教科の指導に当たっては、特に自立活動の時間における指導との密接な関連を保ち、学習効果を一層高めるようにすること。



肢体不自由のある子どもに必要な指導内容の一つとして、生活経験の拡大があり、担任として、体育の授業では、直接的な経験が少ない子どもに配慮し、ゲームの参加の仕方等、様々な工夫を考えています。

### 肢体不自由 中学校

### シッティングバレーボール

<p>体育</p> <p><b>実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上肢機能軽度障害、体幹機能障害、起立困難</li> <li>・車いすを使用</li> <li>・知的に遅れはないが、書字や作業に時間がかかる</li> </ul>	<p>体育</p> <p><b>目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット型の特性を生かし、楽しくゲームを行うことができる</li> </ul>
<p><b>実践</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>準備するもの バドミントンコート、ネット（高さは実態に合わせて調整）、ボール（ビーチボール、ソフトバレーボールなど実態に合わせて選択）</p> </div> <p>複数の生徒が必ずボールに触れてから相手コートに返球する、レシーブでゲームを始めるなど、ルールを決める</p>	
	
<p>多くの生徒がゲームに参加できるか、楽しめるかを考えて、みんなで相談してルールを決める</p>	
<p><b>担任の願い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の有無に関係なく、支援を必要とする生徒に配慮した工夫をし、一緒に運動する環境をつくる</li> <li>・車いすから降り、運動を行う場合には細かな配慮が必要となることを意識して、教員はコミュニケーションをとりながらそれぞれの生徒のニーズをしっかりと把握した上で指導する</li> <li>・生徒が体験的な活動を通して、感じたことや気付いたことなどを言語化する力を育てる</li> <li>・チームでコミュニケーションを取り合うとき、言葉だけでなく身振りなど、補助的手段の活用を促す</li> </ul>	

## 病弱

- (1) 個々の児童生徒の学習状況や病気の状態、授業時数の制約等に応じて、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項に重点を置くとともに、指導内容の連続性に配慮した工夫を行ったり、各教科等相互の関連を図ったりして、効果的な学習活動が展開できるようにすること。
- (2) 健康状態の維持や管理、改善に関する内容の指導に当たっては、自己理解を深めながら学びに向かう力を高めるために、自立活動における指導との密接な関連を保ち、学習効果を一層高めるようにすること。
- (3) 体験的な活動を伴う内容の指導に当たっては、児童生徒の病気の状態や学習環境に応じて、間接体験や疑似体験、仮想体験等を取り入れるなど、指導方法を工夫し、効果的な学習活動が展開できるようにすること。
- (4) 児童生徒の身体活動の制限や認知の特性、学習環境等に応じて、教材・教具や入力支援機器等の補助用具を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。
- (5) 児童生徒の病気の状態等を考慮し、学習活動が負担過重となる又は必要以上に制限することがないようにすること。
- (6) 病気のため、姿勢の保持や長時間の学習活動が困難な児童生徒については、姿勢の変換や適切な休養の確保などに留意すること。

可能な範囲で通常の学級の子どもと、直接的又は間接的に活動をともにする機会を積極的に設けていきたいと考えています。体調により登校できない場合にも、友達と活動をともにすることができる授業を考えています。



### 病弱・身体虚弱 小学校

### 遠隔授業で工場見学

<p>社会</p>	<p>社会</p>
<p><b>実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体調により登校できない日がある</li> <li>・コミュニケーションが苦手な自分から気持ちや考えを発信することが少ない</li> </ul>	<p><b>目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よりたくさんの人に利用してもらうため施設がどんな工夫をしているのかを知る</li> </ul>
<p><b>実践</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="151 1489 1029 1624" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>準備するもの パソコン、パソコンにカメラが内蔵されていない場合はWebカメラ、大型モニター、タブレットPC、マイク</p> </div> <div data-bbox="1061 1489 1428 1624" style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; color: blue;"> <p>児童が見学できない場所や立ち入りが制限されている場所の見学も可能になる</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がいる場所（病院・自宅など）と交流学級の教室と学校外施設の3カ所を同時につないで、バーチャル社会見学（間接体験）を実施する</li> <li>・タブレットPCを通じて、児童が施設内部を見学し、あらかじめ考えていた質問や見学を通して知りたいと思ったことを工場担当者に尋ねる</li> </ul>	
<p><b>担任の願い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院などで学びの空白があったり、体調の変化などで行事と一緒に参加できなかったりする場合においても、児童が授業に参加でき、興味や関心を広げることができるようにする</li> <li>・他の教科においても、ICTを活用することで、児童がタブレットPC等の機器の操作に熟達し、自分にとって必要な機能を選び使いこなすことができる力を育てる</li> <li>・学習時間に制約等がある場合、基礎的・基本的な事柄を習得させる視点から指導内容を精選する</li> <li>・授業中、児童が自分の体調を把握し、必要に応じて休養をとることができるようにする</li> </ul>	



## 視覚障害

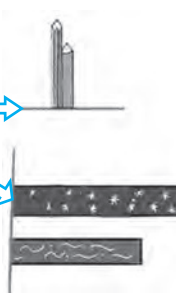
- (1) 児童生徒が聴覚、触覚及び保有する視覚などを十分に活用して、具体的な事物・事象や動作と言葉とを結び付けて、的確な概念の形成を図り、言葉を正しく理解し活用できるようにすること。
- (2) 児童生徒の視覚障害の状態等に応じて、点字又は普通の文字の読み書きを系統的に指導し、習熟させること。なお、点字を常用して学習する児童生徒に対しても、漢字・漢語の理解を促すため、児童生徒の発達の段階等に応じて適切な指導が行われるようにすること。
- (3) 児童生徒の視覚障害の状態等に応じて、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項から着実に習得できるよう指導すること。
- (4) 視覚補助具やコンピュータ等の情報機器、触覚教材、拡大教材及び音声教材等各種教材の効果的な活用を通して、児童生徒が容易に情報を収集・整理し、主体的な学習ができるようにするなど、児童生徒の視覚障害の状態等を考慮した指導方法を工夫すること。
- (5) 児童生徒が場の状況や活動の過程等を的確に把握できるよう配慮することで、空間や時間の概念を養い、見通しをもって意欲的な学習活動を展開できるようにすること。



指導形態、指導方法等を弾力的に考えることが大切です。視覚を中心とするのか視覚以外の感覚を中心として学習を行うのか、読み書きの速さほどの程度かなどの実態把握が必要です。視力などの視機能障害の程度だけでは判断できない場合も少なくないので、実態に応じて慎重に検討します。

### 弱視 小学校

### どちらが長い？

<p><b>算数</b></p> <p><b>実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大教科書を使用</li> <li>・単眼鏡を使用</li> <li>・物の整理が苦手</li> </ul>	<p><b>算数</b></p> <p><b>目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直接比較の方法で長さを比べることができる</li> </ul>
<p><b>実践</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長さの比べ方を考えよう                     <ul style="list-style-type: none"> <li>鉛筆を比べよう…「下に合わせる」という言葉と合わせる基準をはっきりさせる</li> <li>ひもを比べよう…基準となる線に合わせてときに、ひもを伸ばすくっつける、並べるなど、自分で実際に操作しながら比べる</li> <li>モールを比べよう…基準となる線に合わせてときに、モールを広げる、伸ばす、並べるなど、実際に操作しながら比べる</li> </ul> </li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>この線が基準になる</p> </div>  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>ものの長さを直接比べるポイントとして、一方の端を揃えたり、曲がっているものはまっすぐに伸ばしたりすることなどを理解できるようにする</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>授業中も、日常生活でもできるだけ指示語を使わないで話すことを意識する</p> </div> </div>	
<p><b>担任の願い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「下とは何か」「合わせるとはどういうことか」など、言葉が表す概念と実際の活動が結び付くように題材を考える</li> <li>・空間概念を養うために、自分の身体を基準とした上下・前後・左右などの位置関係を把握する力を育てる</li> <li>・児童が考える時間、試す時間、自分なりに解決できる時間を確保し、達成感や成就感を得られるようにする</li> <li>・授業の流れや活動の手順を設定したり、活動の最初から最後までを通して体験できるようにしたりして、時間の概念を養う</li> </ul>	

## 聴覚障害

- (1) 体験的な活動を通して、学習の基盤となる語句などについての的確な言語概念の形成を図り、児童生徒の発達に応じた思考力の育成に努めること。
- (2) 児童生徒の言語発達の程度に応じて、主体的に読書に親しんだり、書いて表現したりする態度を養うよう工夫すること。
- (3) 児童生徒の聴覚障害の状態等に応じて、音声、文字、手話、指文字等を適切に活用して、発表や児童生徒同士の話し合いなどの学習活動を積極的に取り入れ、的確な意思の相互伝達が行われるよう指導方法を工夫すること。
- (4) 児童生徒の聴覚障害の状態等に応じて、補聴器や人工内耳等の利用により、児童生徒の保有する聴覚を最大限に活用し、効果的な学習活動が展開できるようにすること。
- (5) 児童生徒の言語概念や読み書きの力などに応じて、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項に重点を置くなど指導を工夫すること。
- (6) 視覚的に情報を獲得しやすい教材・教具やその活用方法等を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。

保有する聴覚を活用することと、子どもの具体的な経験等に照らし合わせて、語句の意味理解を促進し、思考へと発展させることが大切で、担任としては、子ども自身が言葉の楽しさを感じられる授業を心掛けています。



## 難聴 小学校

## なんて言っているのかな？

<p>自立活動</p>	<p>自立活動</p>
<p><b>実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中度感音難聴で補聴器装着</li> <li>・分かりやすい言葉ならイメージをしながら理解でき、自分なりの言葉で伝えようとする</li> </ul>	<p><b>目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の場面に合わせて、登場人物の言葉を考えることができる</li> <li>・文に書かれていない心情や言葉を考えることができる</li> </ul>
<p><b>実践</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おおきなかぶ」の登場人物の台詞や気持ちを考える</li> <li>かぶが抜けなかったときの登場人物の気持ちを考える</li> <li>「よびました」のところは具体的にどう呼んだのかを考える</li> <li>みんなが考えた台詞を用いて劇遊びを楽しむ</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div data-bbox="279 1568 470 1702" style="text-align: center;"> </div> <div data-bbox="486 1523 869 1702" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>おばあさんが「いったこと」 まごの「いったこと」 犬の「いったこと」 ねこの「いったこと」 ねずみの「いったこと」</p> </div> <div data-bbox="965 1355 1412 1444" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>意味理解ができているか、確認することが大切</p> </div> <div data-bbox="901 1512 1412 1668" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>話す、書く、手話、パソコン入力、ICTの活用で、発表や話し合いの場面で表現する力を身に付ける</p> </div> </div>	
<p><b>担任の願い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害のある児童は、文に表現されていない行間を理解することが難しいこともある。そのため、児童が経験してきたことや知識と照らし合わせながら、文に表現されていない状況をイメージし、それを言葉で表現する活動を取り入れる</li> <li>・登場人物の気持ちを推測する場面を意図的に設ける</li> <li>・児童が話し言葉と書き言葉の違いを理解したり、関係性を踏まえた会話（言葉遣い）を意識したりすることができるようにする</li> <li>・授業の開始前に、児童の補聴器を用いて実際に音声を聞いてみるなどして、補聴器が適切に作動しているかを確認する</li> </ul>	



「障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について（通知）」（平成25年10月4日）によると、自閉症・情緒障害特別支援学級の対象の児童生徒は以下のように書かれています。

- 一 自閉症又はそれに類するもので、他人との意思疎通及び対人関係の形成が困難である程度のもので
- 二 主として心理的な要因による選択性かん黙等があるもので、社会生活への適応が困難である程度のもので



自閉症・情緒障害特別支援学級では、人との関わりを円滑にし、生活する力を育てることを目標に指導を進めています。担任として、日常生活習慣の形成のための指導と人に関わるための指導の中から、情緒を安定し、友達や教職員と一緒に活動する喜びや楽しさを味わうような学習活動となるように心掛けています。どんな授業をつくらうかと考えるのは、担任の醍醐味でもあります。





## 自閉症・情緒障害 小学校

## 集団で活動しよう

<p><b>自立活動</b></p> <p><b>実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の中で自分の気持ちを表現することが苦手だが、少人数なら表現することができる</li> </ul> <p><b>実践</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年から6年までの縦割り班で活動する</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>例えば…</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲームをしよう</li> <li>○季節の壁面飾りを作ろう</li> <li>○近くの公園で遊ぼう</li> <li>○遊びコーナーを作ろう 企画や運営をする</li> <li>○遠足に行こう 相談して決める (班員、行き先や交通手段、ルール、係活動、持ち物) 作成する (しおり、まとめの新聞)</li> </ul> </div>	<p><b>自立活動</b></p> <p><b>目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「～したい」気持ちを表現する</li> <li>・友達の意見を聞く</li> <li>・グループ内で話し合い、物事を決める</li> </ul>
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">             低学年は高学年への憧れ 高学年は低学年への思いやり           </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">             できることは自分で できないことはHELP発信を           </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>集団でゲームをするときの約束</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>1. ゲームは負けることもある。</p> <p>2. ルールを守る。</p> <p>3. ずるとしない。(はら1回1枚)</p> <p>4. 負けはさわがない。</p> <p>5. 最後までやる</p> </div> </div>	
<p><b>担任の願い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が周りの人とのコミュニケーションをとりながら、折り合いを付けられるようにする</li> <li>・挨拶、言葉遣い、約束など、将来を見据えて必要な力を付けられるようにする</li> <li>・力を合わせないとできない活動や、複数で行う方が楽しくなる活動を取り入れる</li> </ul>	

自立活動	自立活動
<b>実態</b>	<b>目標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝ち負けにこだわり、負けたときは泣いて友達とトラブルになる</li> <li>・視覚的な支援があるとルールを理解できる</li> <li>・黒板を写すとき、どこを見ていいか混乱する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝っても負けても最後までゲームができる</li> <li>・友達と交代してゲームを楽しむことができる</li> <li>・ルールを意識して身体を動かす</li> <li>・見る力を高める</li> </ul>
<b>実践</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーキットゲーム 手型や足型の指示を合わせて一周する 友達の活動を応援し、良いところを伝える ペアで協力してサーキットを回る</li> </ul>	 <p>視覚的に分かりやすい教材を使ってコースを設定する</p>
<p>はみ出さない、設定時間に合わせてゴールする等、ルールを変更する ペアのときにバランスボールを体ではさんだり、手をつないだりしてお互いの動きを感じながら活動する 「どんまい!」「次があるよ!」とお互いに声かけをし合うことができるようにする</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ころころキャッチ（机の端から転がしたボールを受ける） ボールの大きさや個数を変える 片手・両手・道具を変えて難易度を変化させながら取り組む</li> </ul>	 <p>目と手の協応の力を付ける取組をする</p>
<b>担任の願い</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コースやルールを児童自身が決めることで、モチベーションの向上とチャレンジしたい気持ちを育む</li> <li>・興味のある題材やストーリー性をもたせて、児童自ら注目する力を付けられるようにする</li> </ul>	

自立活動	自立活動
<b>実態</b>	<b>目標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗経験が多く自己肯定感が低い</li> <li>・自分の状態や気持ちに気づきにくく、表現が苦手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の得意・不得意を知る</li> <li>・適切な方法を見つけて成功する経験を積み重ねる</li> </ul>
<b>実践</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が「できる」「分かる」方法を知る 伝言の場面・テスト勉強の仕方や予定の立て方 読みやすいフォントやポイント数</li> <li>・自分の不得意を知り、必要な事柄は他者に依頼する 見通しが必要…「次の予定を教えてください」 その場で質問するのは難しい…事前に質問事項を書いて「教えてください」 聴覚的な苦手さがある…「ゆっくり話してほしいです」、「紙に書いてください」</li> <li>・自分の状態を分かり、担任との約束のもとリラックスルームへ行く</li> <li>・自分の気持ちを教員に伝えることができる</li> </ul>	 <p>メモをとりやすいのはどのタイミング？</p> <p>僕は話を聞き終わってからメモをとる方がいい</p>
<p>どこに行くのか、どうなれば戻ってくるのか、何を教員に知ってもらいたいのかなど、自分の思いを表現できる方法を準備しておく</p>	
<b>担任の願い</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身ができないと思わず、自分に合った方法を見付ければ「できる」という自己理解や自己決定ができるようにする</li> <li>・生徒が自分の状態や気持ちについて理解することができるとともに、人に伝えることができ、分かってもらえたという経験が積めるようにする</li> </ul>	

## 引用・参考文献

- (1) 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（平成 21 年 9 月）『特別支援教育の基礎・基本』
- (2) 心のバリアフリー学習推進会議（平成 30 年）『学校における交流及び共同学習の推進について～「心のバリアフリー」の実現に向けて～』
- (3) 文部科学省（平成 19 年 4 月）『特別支援教育の推進について（通知）』
- (4) 文部科学省（平成 19 年 4 月）『共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）』
- (5) 文部科学省（平成 24 年 7 月）『通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について』
- (6) 文部科学省初等中等教育局長（平成 25 年 10 月 4 日）『障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について（通知）』
- (7) 文部科学省（平成 25 年 10 月）『教育支援資料～障害のある子供の就学手続と早期からの一貫した支援の充実～』
- (8) 文部科学省（平成 28 年 1 月）『発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン～発達障害等の可能性の段階から、教育的ニーズに気づき、支え、つなぐために～』
- (9) 文部科学省『平成 29 年度小・中学校新教育課程説明会（中央説明会）における文部科学省説明資料』
- (10) 文部科学省『幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領の改定のポイント』
- (11) 文部科学省（平成 31 年 3 月）『交流及び共同学習ガイド』
- (12) 文部科学省（令和元年 6 月）『教科書制度の概要』
- (13) 文部科学省（平成 30 年）『特別支援教育 夏』
- (14) 文部科学省（平成 29 年 4 月）『小学校学習指導要領』
- (15) 文部科学省（平成 29 年 3 月）『小学校学習指導要領解説 総則編』
- (16) 文部科学省（平成 29 年 7 月）『小学校学習指導要領解説 国語編』
- (17) 文部科学省（平成 29 年 6 月）『中学校学習指導要領』
- (18) 文部科学省（平成 29 年 3 月）『中学校学習指導要領解説 総則編』
- (19) 文部科学省（平成 29 年 7 月）『中学校学習指導要領解説 保健体育編』
- (20) 文部科学省（平成 29 年 3 月）『特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領』
- (21) 文部科学省（平成 30 年 3 月）『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』
- (22) 文部科学省（平成 30 年 3 月）『特別支援学校教育要領、学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園部・小学部・中学部）』
- (23) 奈良県教育委員会事務局学校教育課長（令和 2 年 1 月 31 日）『令和 2 年度奈良県公立高等学校及び県立高等養護学校の入学者に関する生徒指導要録の抄本又は写し及び健康診断票等の提出について（通知）』

### 特別支援学級の実践をお話いただいた先生方（敬称略、五十音順、令和 2 年 3 月現在）

岡田 恵未	（奈良市立鳥見小学校）	岡本 恵子	（曽爾村立曽爾中学校）
岡本 卓也	（奈良市立都南中学校）	岡本真由美	（吉野町立吉野小学校）
小川 奈美	（大淀町立大淀希望ヶ丘小学校）	金井 京子	（高田市立片塩中学校）
杉本 晴美	（桜井市立桜井小学校）	中西 通剛	（奈良市立鳥見小学校）
中山 永章	（高田市立片塩中学校）	前尾 博美	（奈良市立都南中学校）
松田 祐子	（橿原市立真菅小学校）	松村 静雄	（生駒市立生駒小学校）
山本 光代	（大淀町立大淀希望ヶ丘小学校）	吉田 貴宏	（曽爾村立曽爾中学校）
脇本 卓美	（特別支援教育巡回アドバイザー）	大塚いずみ	（特別支援教育巡回アドバイザー）

# 特別支援学級教育課程ハンドブック

令和2年3月 発行

編集・発行 奈良県立教育研究所  
特別支援教育部

〒636-0393 奈良県磯城郡田原本町多722  
奈良県総合リハビリテーションセンター2階  
TEL：0744-32-8201



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルフォントを採用しています